

<3 水害は防げる>

3-3 鬼怒川水害の裁判で分かったその他の問題

3-3-1 ダムは不要。治水(洪水調節効果)にはほとんど役に立たない。

2015年9月関東・東北豪雨の治水効果は、鬼怒川上流4ダムで、決壊場所の水位を約25cm下げたと国交省からHPで報告されております。 https://www.mlit.go.jp/river/stock_kouka/jirei/jirei_gunma2.html

決壊した箇所は21km付近だけなので、4つのダムで上三坂地区の水位を約25cm下げたことになり、4つのダムの中で一番新しい平成24年に完成した湯西川ダムでの、治水の効果(洪水調節効果)で確認します。

水位低下の効果は各ダムの有効容量(湯西川ダムは4ダム合計の28%)で単純計算すると7cm(25cm×0.28%=7cm)。湯西川ダムの総費用は、平成28年の事後評価によれば、約1,800億円なので、1,800億円/7cm≒250億円。1cm水位を下げるのに250億円掛かってます。



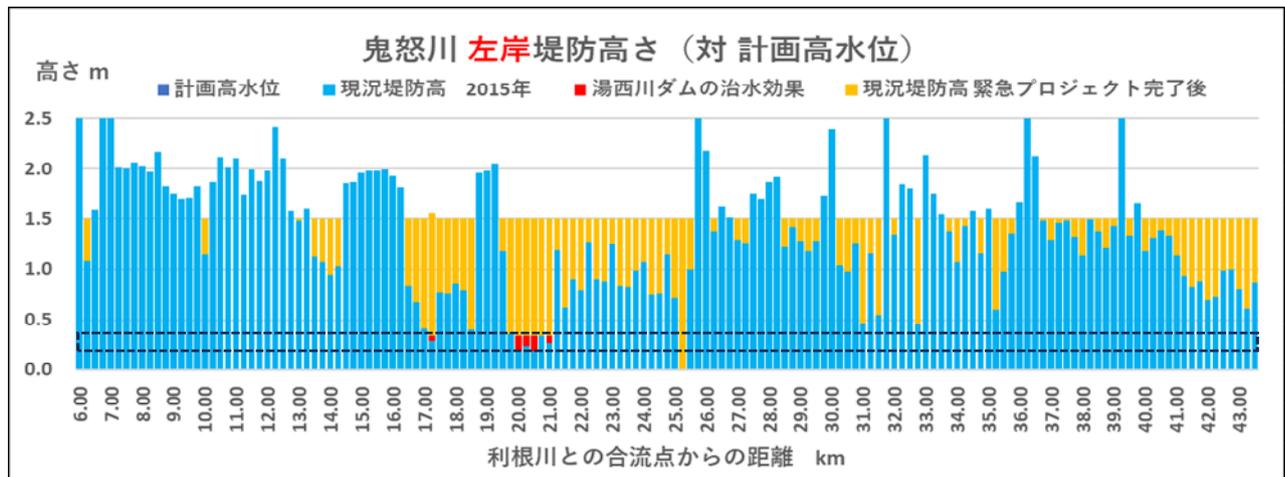
- 平成27年9月関東・東北豪雨において、鬼怒川上流の4つのダムで、できる限り洪水を貯める操作(約1億 m^3)を実施。
- 4つのダムによる効果の試算では、決壊箇所の水位を約25cm低下させるとともに、氾濫水量を概ね2/3(約5,300万 m^3 →約3,400万 m^3)、氾濫面積を概ね2/3(約60 km^2 →約40 km^2)、浸水深3m以上の面積を概ね1/3(約8.5 km^2 →約3.0 km^2)に減少。

ダムを建設して、洪水の水位を下げるには【1cm下げるのに、250億円】も掛かってます。

では、堤防を高くする費用はどのくらいでしょう。2015年水害発生により始まった鬼怒川緊急プロジェクトは、対象の44kmの範囲を780億円で改修が完了しました。越水発生箇所の上三坂地区では堤防高さが1.5m以上高くなりました。対象の44kmの範囲で言えば、堤防高が計画高水位に余裕高の1.5mを加えた高さ以上になりました。

ダムが貯水すること決壊地点における水位低下の影響(治水効果)と、堤防改修で堤防の高さを高めた際に越水までの水位上昇に耐える影響(治水効果)をグラフに示したのが次ページの図です。

本当にダムは必要ですか？治水に関しては、ダムは必要無いとの説明を次項で。



※ 上記のグラフは、裁判の中で提出された証拠等にあるデータを使い、推定の部分もありますが基本的に間違いはありません。

グラフの対象区間はデータの関係で利根川合流部から6～43.5km(緊急プロジェクトは2.3～46.5 km)で、鬼怒川左岸の堤防高さを表したグラフです。

- ・青色の棒の高さは、2015年の水害発生前の堤防の高さです。
- ・赤色(実際は点線の部分)の棒が湯西川ダムが貯水し、決壊箇所の水位を7cm低下させた部分です。
- ・オレンジ色の棒が川緊急プロジェクトの改修で堤防が高くなった部分(最低でも余裕高b分は高くなり、現実はまだ高くなっています)です。

湯西川ダムが貯めた効果は、黒色の点線の部分で、**越水に対する影響は赤線の部分**です、この、赤線の部分の治水効果を得るために1,800億円掛かっているということです。

一方の堤防工事(緊急プロジェクト)では、780億円でオレンジ色の部分が治水効果です。ダムの建設費の半分以下で、**堤防工事の治水効果はけた違い**です。いかにダムの洪水調節効果が無いことが一目瞭然です。加えて**ダムの上流に降った雨以外は全く効果なし**です。

ダムの効果は治水だけではなく、発電でも、利水でも、ダムでなければ出来ないことでは無く、他の方法が有るはずで、それを考えればダム建設は大問題です。事項の治水経済評価で説明しますが、『ダム建設に依る費用対効果が極めて問題です。』

みなさん、ダム建設の問題に声を上げてください。情報を拡散してください。